

基本的方向性 I 健康を支援するコミュニティの実現							
取組分野	1 社会的つながり(ソーシャルネットワーク)	※3<>については、計画策定時の数値(※1・2)と比較するものではありません。					
評価指標	計画策定時	目標値	H30参考※3	H31実績	H32実績	H33実績	H34実績
健康に気を付けている人の増加(20歳~64歳)	82.2%※1	85%	《90.4%》				
地域活動参加の割合の増加(65歳以上)	63%※2	80%	《58.3%》				

データ抽出元 ※1:健康状況アンケート ※2:日常生活圏域二エズ調査 ※3:市民健康診査及び特定健康診査問診票

基本施策 ○市民がより健康づくりに取り組めるようにするための情報発信及び相談体制の整備

市の主な取組(事業名)	目標値・実績値等	年度					実施状況及び成果等(H30)	担当課評価	課題及び今後の対策(方向性)	
		H30	R1	R2	R3	R4				
ア 各種健康教育、健康相談の実施										
a) 生活習慣病予防に関する健康講座等	指標 「未病」に関する講座の参加者数(人)						「未病改善」の取組を推進するため、市内3か所のトレーニングルームを「未病センターはだの」としてH31年度に県の認証を受ける準備を実施した。	A	平成31年4月1日に3か所のトレーニングルームが「未病センターはだの」として認証された。未病センターはだのを会場に健康測定や健康講座を実施していく。	健康づくり課
目的:「未病改善」を知る人を増やす 内容:市内3か所に未病センターを設置し、未病センターで健康に関する普及啓発を実施	目標値	240	240	240	240					
	実績値									
b) 幼小中PTA向け出張講座(食事・運動・こころ)	指標 講座アンケートで「健康はだの21」知っていた割合(%)						幼稚園・こども園・小・中学校に講座の案内を通知。内容は、食育(5校)、身体活動(4校)、こころの健康(4校)を実施し、若い世代に向け健康づくりのための情報発信を行った。前年より実施校は増加し、13校となった。	A	実施校数を増やすため、周知する時期を見直し、市内幼稚園、こども園、小中学校の年間予定に組み込めるよう、前年のうちに案内をしていく。	健康づくり課
目的:若い世代で健康づくりへの関心が高まる人を増やす。 内容:幼稚園・こども園・小・中学校のPTA向けの講座を実施	目標値	50	50	50	50					
	実績値	38.0								
c) 高齢者のための出前講座	指標 出前講座の延参加者数(人)						H30年度から、はだのさわやか体操(ゆつくりバージョン)の普及を推進したため、出前講座(運動)の参加者数が増加した。 運動:220回 2,352人 栄養:18回 371人/口腔:24回 449人 認知症予防:33回 646人 その他:12回 277人	A	はだのさわやか体操の普及および実施団体をさらに増やすとともに、フォローアップのために、講師派遣を継続する。また、今後も出前講座を利用してもらえるよう、団体の要望にあった講座づくりを行っていく。	高齢介護課
目的:地域全体での介護予防の意識を高める。 内容:老人クラブや自治会などの活動の場に向き、高齢者のための健康講座、介護保険制度や健康づくり、認知症予防のための講座を行う。	目標値	3,700	3,900	4,100	4,300	4,500				
	実績値	4,095								
d) 若い世代への健康情報の発信	指標 がん検診の全電子申請の数(件)						1歳6か月児健診時や幼稚園・保育園の全保護者、PTAを対象とした講座でリーフレットの配布を行った。ホームページやQRコードで電子申請による、がん検診の申し込み方法を若い世代に向け情報発信を行った。(H29 1015件)	A	今後も継続していく。	健康づくり課
目的:SNS等を活用して、若い世代の人が容易に健康情報を得られる 内容:QRコードや電子申請等の体制整備	目標値	1,800	1,800	1,800	1,800	1,800				
	実績値	1,435								
e) 各公民館での講座の開催	指標 公民館自主事業参加者数(人)						公民館自主事業(関係機関と共催含む) 996件 22,325人 公民館まつり 23,220人 ①高齢者関係 49件 ②運動 36件 ③趣味等 139件 ④料理(食育) 55件 ⑤パソコンIT 53件⑥親子・子ども 441件 ⑦自然・歴史等 60件、⑧その他 163件	A	公民館自主事業については、継続した講師の担い手の課題や講座内容の充実とともに、周知方法についてもより充実していくことが課題。	生涯学習課
目的:市民が教養の向上、健康の保持・増進及び社会参加をする。 内容:各公民館での健康づくり事業や講座の開催	目標値	56,000	56,000	56,000	56,000	56,000				
	実績値	45,545								

基本施策 ○地域活動団体や大学、自治会組織などの特性を生かした協働事業の開催

市の主な取組(事業名)	目標値・実績値等	年度					実施状況及び成果等(H30)	担当課評価	課題及び今後の対策(方向性)	
		H30	R1	R2	R3	R4				
ア 大学との協働事業の実施										
a) 東海大学体育学部との協働による運動講座	指標 運動講座参加者数(人)						東海大学体育学部と協働し、ロコモ予防を目的とした運動講座(ウォーキング講座)を開催した。 体育学部の教員による講話、実技を学生らの協力を得て開催した。	A	大学側のマンパワーや知識、道具など協力を得ながら、市民目線で健康づくりに寄与できるように協力し、事業を進めていく。	健康づくり課
目的:若い世代へ学術的根拠をもとにした健康づくりの普及啓発を行う。 内容:東海大学と協力して講座を開催	目標値	30	30	30	30	30				
	実績値	35								
b) 高齢者を対象とした東海大学体育学部の委託事業	指標 体力測定会参加者数(人)						平成19年から同事業を継続。今年度は悪天候であったが、昨年度同様の400人の参加者。 測定会 6会場 400人 説明会 3会場 134人	A	今後も東海大学と連携事業として継続していく。	高齢介護課
目的:高齢者が自分の体力に合った運動を継続する。 内容:委託事業として体力測定会と結果説明会を開催	目標値	400	400	400	400	400				
	実績値	400								
c) 健康増進事業計画推進協議会との協働事業の実施	指標 健康づくりイベントの開催数(回)						健康に関心がある人だけに限らず、世代を問わず参加できるイベント「春風ウォーク」「たばこ祭り」「健康フェスティバル」を開催し、推進協議会委員(市民代表)と協力して、健康に感心をもつきっかけづくりを行った。	A	秦野市健康増進計画推進協議会が、「健康はだの21」を普及啓発する機会を継続して支援していく。	健康づくり課
目的:地域の団体から推薦された健康増進計画推進協議会(市民代表)が普及啓発を行う。 内容:健康づくりイベントを実施し、活動を支援する	目標値	3	3	4	4	4				
	実績値	3								
d) 地域での体操会の開催	指標 さわやか体操を行う市内体操会の数						直営体操会(丹沢あおぞら・ラジオ体操会)や委託体操会(3か所)、公園体操会を含む市内の12か所で定期的に体操会を開催し、人とのつながりの中で運動が継続できている。 地域の14団体がさわやか体操を取り入れたが、実績には含まない。	A	地域の公共施設や公園などで自主的に体操を行う「体操会」の立ち上げを支援するとともに、既存の体操会の継続を支援していく。	健康づくり課
目的:地域で、人とつながりながら健康づくりを継続する「体操会」の参加人数を増やす。 内容:さわやかマスターが中心となり、体操会を定期的に開催	目標値	12	13	14	15	16				
	実績値	12								
e) さわやか体操出張講習会	指標 さわやか体操出張講座の依頼数(団体)						依頼のあった自治会や地域の活動団体に向き、秦野市民体操「さわやか体操」の指導と体操継続のPRを行った。その他、イベントでも体操披露を行った。(H29:7団体)	A	イベント等の機会をとらえ、地域の自治会、活動団体、サークル等の集まりに、周知を継続していく。	健康づくり課
目的:地域の活動団体や自主サークルへさわやか体操を広める。 内容:依頼のあった団体へ、さわやか体操の出張講座を実施	目標値	10	11	12	13	14				
	実績値	12								

基本施策 ○行政とボランティアとの協働による健康づくりの推進及び見守り体制の構築									
市の主な取組(事業名) 内容	目標値・ 実績値等	年度					実施状況及び成果等(H30)	担当課 評価	課題及び今後の対策(方向性)
		H30	R1	R2	R3	R4			
ア 健康推進員の養成・育成及び活動支援	指 標	健康推進員養成講座の受講者数(人)					市内民間事業者へ周知協力を図った。健康づくりが市民から市民に広がることを目指し、栄養・運動・介護予防などの健康づくりを地域へ普及するボランティアを養成した。H30年度は、未病センター認証にむけ、トレーニングルームスタッフ向けに開催した。(H29年度9人)	A	受講後に健康づくりに関するボランティア活動を行う市民活動団体(公衛会)への加入者が減少している。受講者へ市民活動に参加できる機会を提供していく。
目的:地域で健康に関する知識を地域へ普及する人を増やす。 内容:健康に関する知識を普及するボランティアを養成する講座を開催	目標値	15	15	15	15	15			
	実績値	21							
イ 食生活改善推進員の養成・育成及び活動支援	指 標	食生活改善推進員養成講座の受講者数(人)					一般市民に向けて周知し、各地域等で活動する食生活改善推進員を養成した。(H29:7人)また、運営委員会や定例会に出席し、円滑に活動できるよう支援した(H30:全10回)	B	養成講座は周知の工夫はしているものの受講人数が低迷しているため、さらに工夫が必要。また、団体の円滑な活動に対する支援を継続していく。
目的:地域で食生活改善推進活動を実践するボランティアを増やす。 内容:食に関する知識を普及するボランティアを養成する講座を開催	目標値	15	15	15	15	15			
	実績値	9							
ウ 市民体操普及員(さわやかマスター)の養成及び支援	指 標	さわやかマスターの登録者数(人)					さわやかマスターの支援のため現任研修会を開催した。今年度は「ゆっくりバージョン」習得に向け意欲が高まった。(実施回数3回/参加人数105人)※新規養成は隔年	A	地域で体操を普及するだけでなく、人と人がつながりながら健康づくりを行うことを目的に活動する「さわやかマスター」の養成、支援を今後も継続していく。
目的:地域でさわやか体操を普及するボランティアを増やす。 内容:「さわやかマスター」養成講座と研修会の開催	目標値	63	70	70	80	80			
	実績値	63							
エ 介護予防普及員の養成講座及び活動支援	指 標	介護予防普及員の人数(人)					・コグニサイズ普及員:実人数52人 養成講座 6回 延167人 (新規22人を養成) フォロー研修 1回 延29人 ・いきいき健康サポーター:実人数34人 定例会3回 延65人 フォロー研修1回 延25人 ・食のソムリエ:実人数16人 定例会2回 延18人	B	コグニサイズ普及員、いきいき健康サポーター、食のソムリエなど、介護予防などに関わるボランティアを増やし活動の場の拡大を目指していく。
目的:地域で介護予防に役立つ活動を広めるボランティアを育成する。 内容:コグニサイズ普及員、いきいき健康サポーター、食のソムリエなど、介護予防などに関わるボランティアの養成及び活動を支援	目標値	-	-	-	-	-			
	実績値	102							
オ ゲートキーパー養成講座	指 標	ゲートキーパー養成累計人数(人)					自分自身や身近な人のこころの不調に気づき、傾聴、つなぎ、見守りをする「ゲートキーパー」としての役割を果たせる市民をひとりでも多く増やすため養成講座を開催した。 H30年度「はだの自殺対策計画」を策定した。	A	多くの市民と接する機会のある各種相談窓口の相談員や職員、地域で市民の相談を直接受けることが多い民生委員などを対象とした養成講座を定期的に開催する。職域での養成も開始する。
目的:自殺リスクに気づき、専門機関へ繋げられる人を増やす。 内容:ゲートキーパーについて学び、専門機関につなぐことができる人を養成する講座を開催	目標値	1,000	1,200	1,300	1,400	1,500			
	実績値	1,000							
カ 認知症サポーター養成講座	指 標	認知症サポーター養成累計人数(人)					地域高齢者支援センター、秦野市認知症キャラバン・メイトの協力にて、学校、公共交通等に対して講座を実施した。 H30 サポーター養成 実2,194人 H30 キャラバン・メイト養成 実49人 (累計285人) H30 ステップアップ講座 2回 延79人	A	さらに具体的に実践的な内容のステップアップ講座を展開していく。養成した認知症サポーターが地域で活躍できるよう活躍の場を作り、提供していく。
目的:認知症高齢者にやさしい地域をつくる。 内容:認知症を正しく理解し、認知症の人やその家族を温かく見守る応援者として何ができるのか学ぶ講座を開催	目標値	10,000	12,100	14,300	16,600	19,000			
	実績値	11,103							
キ 地域介護予防活動支援事業	指 標	地域介護予防活動の補助交付数(団体)					・新規申請が10団体、前年度に申請した団体の多くが継続申請し、補助を受け活動。はだのさわやか体操を行う団体が、新規14団体立ちあがったが、補助金は利用せず、実績値に含まない。 ・住民ボランティア団体、シルバー人材センター等に補助金を交付し、訪問型サービスB、D及び通所型サービスBを実施。 訪問型サービスB(住民主体) 2団体 36件利用 訪問型サービスD(移動支援) 2団体 494件利用 通所型サービスB(住民主体) 4団体 904件利用 ・包括の組織支援 25回 延1,053人	A	地域で介護予防につながる活動団体を増やし、さらに身近な地域の通いの場の充実を図る。
目的:地域で身近な通いの場の充実を図る。 内容:地域住民が主体となり、高齢者の居場所づくり、生きがいづくりとなるような介護予防活動を行う団体に対する支援	目標値	88	94	102	110	117			
	実績値	43							
ク 認知症カフェへの支援	指 標	認知症カフェ数(箇所)					・市内全域の認知症の人と家族が参加できるカフェ&サロンの情報を集約し、認知症の人やその家族が集える場所の情報提供を行った。 ・市内7地域の高齢者支援センターに認知症推進員を1名ずつ配置した。	B	地域高齢者支援センターと連携を図り、認知症カフェの開設等、認知症の人を含む高齢者にやさしい地域づくりに取り組んでいく。
目的:認知症の人の居場所づくりや、心理的負担の軽減等を図る。 内容:地域住民が運営する誰もが集える場「認知症カフェ」に対する支援	目標値	8	9	10	11	12			
	実績値	7							
ケ 元気高齢者の就労支援、活躍の場の拡大	指 標	「認定ヘルパー養成研修」等開催数(回)					送迎員等を募集している事業者への情報提供を行い、研修修了者の就労支援を行った。認定ドライバー養成研修修了者の意見交換会を2回実施し、就労につなげる働きかけを行った。「認定ヘルパー養成研修」 2日間×3回 修了者77人 「認定ドライバー研修」 3日間×2回 修了者59人	A	研修参加者の人数を増やすとともに、介護人材や送迎員を募集している事業者への情報提供を引き続き行う。研修修了者の就労や地域活動の支援について検討する。
目的:高齢者が地域で活躍し、就労できる 内容:介護予防・日常生活支援総合事業の訪問型サービスの担い手として「認定ヘルパー養成研修」「認定ドライバー研修」の実施	目標値	5	5	5	5	5			
	実績値	5							
コ 行政提案型協働事業の実施(はだのさわやか体操で介護予防)	指 標	さわやか体操参加者数(人)/団体(数)					H30年度より、はだのさわやか体操の普及事業を開始したが、14団体が継続して体操を行っており、目標値を大幅に達成した。 ・理学療法士や大学教授など、関係職種との連携をとることができている。14団体 実219人	A	はだのさわやか体操の実施団体数を増やすとともに、さらに、サロン活動につながるよう支援を行う。はだのさわやか体操が見守り機能の拡大につながるコミュニティの形成を目指す。
目的:高齢者の健康寿命の延伸を図る。 内容:民間事業者と協働して、はだのさわやか体操で介護予防を行う場として既存の団体や新規活動の団体を支援	目標値	600	1,200	1,800	5,000	6,000			
	実績値	4,490							

健康増進計画(健康はだの21)第4期計画

基本の方向性 II 健康維持向上のための生活習慣の改善と環境づくり(疾病予防と健康増進)

取組分野		1 栄養・食生活		計画策定時	目標値	H30実績	H31実績	H32実績	H33実績	H34実績
評価指標										
朝食を週4日以上食べている人の増加(朝食欠食率の減少)(40歳~59歳)				82.4%	85%	83.0%				
主食・主菜・副菜をそろえた食事をしている人の増加				51.6%	55%	51.3%				
野菜を毎食食べる人の増加				38.5%	45%	55.4%				
適正体重を維持する人の増加(BMI18.5~25未満の者の増加)(40~74歳)		男性		69.4%	71%	67.4%				
		女性		69.9%	72%	69.1%				

重点目標 <健康な食生活を送る人を増やす>

基本施策 O 「はだの生涯元気プラン(秦野市食育推進計画)」との連携による食育の推進

市の主な取組(事業名)	内容	目標値・実績値等	年度					実施状況及び成果等(H30)	担当課	課題及び今後の対策(方向性)	
			H30	R1	R2	R3	R4				
ア	食生活改善推進員の養成・人材育成(再掲)	指標 アンケートで「食改として活動する」割合(%) 目標値 80 実績値 67.0	80	80	80	80	80	講座(7日間)で学んだ料理や食育、健康管理等の知識や体験を、家庭だけでなく地域においても食生活改善推進員として生かしている。(H30年度9名中6名が食生活改善推進員として活動)	B	講座内で食生活改善推進員の魅力ややりがいを伝え、受講後に食生活改善推進員として活動する人を増やす。	健康づくり課
イ 食育推進事業の実施											
a)	幼稚園、こども園等における食育	指標 食育キャラクターを活用した食育の実施回数(回) 目標値 14 実績値 24	14	27	27	27	27	民間保育園、こども園へ実施対象を拡大したことで、回数や対象者を増やして実施することができ、多くの人に普及啓発することができた。 実施人数1,518人	A	実践意欲を高め楽しく食育を進められるよう、引き続き各園と連携し、多くの人への普及啓発を継続していく。	こども家庭支援課
b)	食育講演会及び講座	指標 アンケートで「食への関心が高まった」割合(%) 目標値 100 実績値 99.1	100	100	100	100	100	幼稚園、保育・こども園、小・中学校PTA、一般市民等を対象に講演会を開催し、年齢期への食への関心を高めることができた。 内容:勝負に勝つ!受験ごはん 実施回数:1回 参加者数:138人	A	食への関心を高め、食育の実践を促すためには、継続的な働きかけが必要。対象者に合わせた内容や開催時間を検討しながら実施していく。	こども家庭支援課
ウ 親子食育推進事業の実施											
a)	おめでた家族教室における食の普及啓発	指標 自分の体にあった妊娠中の体重増加量を知っていた割合(%) 目標値 - 実績値 57.1	-	-	-	-	-	おめでた家族教室にて、妊産婦の食生活指針を周知するよう努めた。教室参加者アンケートでは、自分の体にあった体重増加量を知っていた人は前年度よりも減少(H29:65.8%)。 実施回数19回 参加者数151人	B	妊娠届出時の面接を通じて、食事バランスについて周知するとともに、おめでた家族教室や、ホームページ、パンフレット配布等により、主食、主菜、副菜をそろえた栄養バランスのよい食事についての普及啓発に努める。	こども家庭支援課
b)	離乳食セミナー、幼児食と歯のセミナー	指標 離乳食セミナーのアンケートで「食育を実践できそう」の割合(%) 目標値 100 実績値 99.6	100	100	100	100	100	離乳食セミナーでは、実際の作り方がわかるように媒体の工夫を図った。 幼児食と歯のセミナーでは、おやつと一緒に食べる体験を通し「共食」の普及啓発に努めた。実施回数:34回 延796人	A	子どもの食と育児不安の解消を図り、家庭で楽しく食育ができるよう支援していくとともに、家族の食生活改善を促すことができるよう、共食を通じた食生活支援に努める。	こども家庭支援課
エ	乳幼児健康診査	指標 3歳6か月健康診査時の朝食欠食の割合(%) 目標値 0 実績値 2.8	0	0	0	0	0	4か月・7か月、2歳・3歳6か月児健診時の集団食育指導、個別相談の実施。朝食のレシピや「早寝、早起き、朝ごはん」の効果をポスターで掲示し、生活習慣づくりの啓発を図った。朝食欠食率は前年と比べ減少した。(H29:3.7%)	A	集団指導や個別相談の中で、「早寝、早起き、朝ごはん」の大切さを周知し、生活リズムの見直しと朝食をしっかりと食べることを勧めていく。	こども家庭支援課
O ライフステージにあわせた栄養バランスのとれた食事の実現と適正体重を維持するための取組											
市の主な取組(事業名)	内容	目標値・実績値等	年度					実施状況及び成果等(H30)	担当課	課題及び今後の対策(方向性)	
			H30	R1	R2	R3	R4				
ア	幼少中PTA向け健康講座~食事編~	指標 アンケートで「実践しようと思った」の割合(%) 目標値 100 実績値 98.0	100	100	100	100	100	PTAを対象に実施。働き世代や子育て世代等、若い時からの生活習慣病予防に関する知識の習得と望ましい食習慣の確立を目指し、バランスの良い食事等を伝える料理講座を実施。 実施校数3校 延53人	A	講座内容の充実化を図り、自宅等で実践しやすい内容の検討をしていく。	健康づくり課
イ 生活習慣病予防対策事業											
a)	メタボリックシンドローム予防・改善のための料理講座	指標 アンケートで「取り組む意欲がある」割合(%) 目標値 80 実績値 89.0	80	85	90	95	100	食生活や食行動を見直し、改善すべき点について自ら気づき、家族を含めた健康の維持・改善に繋げる料理講座を実施した。 実施回数7回 延73人/実35人	A	参加者の増加を図り、自分自身の食事の適量や内容、気を付ける点等を理解して日常生活の中で実践できる意欲がある人を増やす。	国保年金課
b)	病態別料理講座の開催	指標 アンケートで「バランス良く食べる意識が高まった」割合(%) 目標値 95 実績値 96.0	95	98	98	100	100	病態別(糖尿病編、高血圧症編、脂質異常症編)料理講座を開催し、生活習慣改善の働きかけを行った。 実施回数3回 延51人	A	生活習慣病のリスクを複合してもつ人が多いため、各病態だけでなく総合的な支援ができるように検討していく。	国保年金課
ウ	地消地産推進事業	指標 アンケートで「参考になった」の割合(%) 目標値 90 実績値 95.0	90	95	95	98	98	ちらしや広報はだでの周知。一般市民を対象に、食事による健康増進や野菜を中心とした望ましい食習慣を図るための料理講座を実施。 実施回数11回 延259人/実85人	A	安定した講座の実施ができているが新規の参加者を呼び込むことが課題。周知方法等を確認していく。	健康づくり課
エ 一般介護予防事業(栄養)の実施											
a)	介護予防普及啓発事業	指標 栄養に関する講座の延参加者数(人) 目標値 800 実績値 829	800	850	900	950	1000	・公民館等で行う栄養講座 「サルコペニア予防」11日間 延175人 「健やかクッキング」2日間×2会場 延57人 「簡単料理」7会場 延107人 ・ミニデイサービスで講座 8回 延145人 ・いきいき運動コースで講座 4回 延106人 ・地域高齢者支援センター主催の介護予防教室 11回 延239人	A	各種の栄養講座・相談などをさらに充実させる。 はだのさわやか体操の実施団体に栄養士が出向き指導を行う等、より多くの高齢者が適切な栄養習慣が身に付くよう、栄養講座の内容検討を行う。	高齢介護課
b)	地域介護予防活動支援事業	指標 地域介護予防活動支援事業の延参加者数(人) 目標値 - 実績値 305	-	-	-	-	-	・いきがい型デイサービス、ミニデイサービスの食のボランティアへ衛生講習会を実施。 ミニデイ 25回 延213人 いきがい型デイ衛生講習 4回 延55人 ・地域介護活動支援補助金団体衛生講習会 2回実施 延4人 ・食のソムリエの定例会に出席し、活動支援。定例会 2回 延18人 ・サルコペニア予防グループ支援 2回 延15人	A	いきがい型デイサービス、ミニデイサービスの食のボランティアが安心して活動できるよう引き続き衛生講習会を行う。	高齢介護課

○ 地消地産を推進する取組										
市の主な取組(事業名) 内容	目標値・ 実績値等	年度					実施状況及び成果等(H30)	担当課 評価	課題及び今後の対策(方向性)	
		H30	R1	R2	R3	R4				
ア 地消地産推進事業(再掲)	指 標	アンケートで「参考になった」割合(%)					はだの野菜ソムリエ倶楽部から講師を招き、地場産野菜の栄養価や保存方法等の紹介をしている。質疑応答では毎回質問があり、参加者にとって有意義な時間となっている。実施回数3回・延人数259人/実人数85人	A	安定した講座の実施ができているが新規の参加者を呼び込むことが課題。周知方法等を確認していく。	健康づくり課
目的:本市の農業や農産物への理解を深める。 内容:地場産野菜を使い、主食・主菜・副菜の揃った健康的な食事の基本を学ぶ料理講座の開催	目標値	85	90	90	95	95				
	実績値	87.0								
イ 親子地場産野菜教室への支援	指 標	親子地場産野菜教室開催数(回)					20組の親子を対象に年14回実施。計画どおり事業は実施され、地産地消を推進した。	A	事業を継続実施し、地産地消を推進していく。	農業振興課
目的:親子で地域の農や食の大切さを学ぶ。 内容:地区農産物産直売研究会や食生活改善推進団体が年間を通じ、親子で野菜の栽培・収穫・調理を体験する教室の開催	目標値	14	14	14	14	14				
	実績値	14 (20組)								
ウ はだの産農産物応援サポーターの拡充	指 標	はだの産農産物応援サポーター店の登録数(店)					地産地消を応援し、PR等に協力するお店を対象に「はだの産農産物応援サポーター店」として登録。広報等でPRしたことにより、目標値より高い実績値となった。	A	今後も広報等でPRすることにより、はだの産農産物応援サポーター店を増やし、地産地消を推進していく。	農業振興課
目的:地産地消を応援する店舗を増やす。 内容:協力する店舗を対象に「はだの産農産物応援サポーター店」登録制度を実施	目標値	36	36	38	38					
	実績値	42								

基本的方向性 II 健康維持向上のための生活習慣の改善と環境づくり(疾病予防と健康増進)											
取組分野 2 身体活動・運動											
評価指標			計画策定時	目標値	H30実績	H31実績	H32実績	H33実績	H34実績		
日常生活において1時間以上の歩行と同等の活動を行っている人の増加	40～64歳	男性	48.8%	54%	47.7%						
		女性	51.6%	56%	49.4%						
	65～74歳	男性	57.5%	62%	55.7%						
		女性	53.1%	58%	54.6%						
運動習慣のある人(1回30分以上、週2回以上の運動を1年以上継続している人)の割合の増加	40～64歳	男性	35.4%	40%	35.5%						
		女性	33.5%	38%	31.2%						
	65～74歳	男性	56.5%	60%	52.6%						
		女性	50.1%	55%	49.1%						
重点目標 <身体活動・運動を行う人を増やす>											
基本施策 ○ 身体活動・運動に関する正しい知識の普及とライフステージに応じた効果的な身体活動の取り組みの推進											
市の主な取組(事業名)		目標値・実績値等	年度					実施状況及び成果等(H30)	担当課評価	課題及び今後の対策(方向性)	
内容			H30	R1	R2	R3	R4				
ア	幼小中PTA向け健康講座～身体活動編～	指標	アンケートで「実践する」割合(%)					幼稚園及び小・中学校PTA(若い世代)に向けた身体活動に関する出張講座を実施。アンケートで「実践できる内容があった」と回答した割合が高く、身体活動を増やす意識が高まった。実施校:4校/参加者数:118人	A	実施校を増やすため、周知する時期を見直し、市内幼稚園、こども園、小中学校の年間予定に組み込めるよう、前年のうちに案内をする。	健康づくり課
	目的:若い世代で健康づくりへの関心が高まる人を増やす。 内容:幼稚園・こども園・小・中学校のPTA向けの運動講座	目標値	100	100	100	100	100				
		実績値	94.9								
イ	健康教育事業(東海大学との身体活動講座)(再掲)	指標	アンケートで「運動を実践・継続できる」割合(%)					例年3月の学生の春休み等を利用し協力を得て実施。ロコモ予防を中心とした講義と実践により、84.8%の人が運動の実践、継続できると回答した。 実施回数:1回/参加者数:35人	A	ロコモ予防を念頭に、日常生活で気軽に実践できる内容を検討して開催していく。大学の新しい知識や測定等の機器を活用できるよう連携してしていく。	健康づくり課
	目的:ロコモ予防のため運動を継続できる人を増やす。 内容:東海大学体育学部の学生が中心となって運動講座の開催	目標値	90	100	100	100	100				
		実績値	84.8								
ウ	生活習慣病予防事業の実施	指標	アンケートで「実践する、できそう」の割合(%)					特定健診受診者等を対象に実施。実践に繋がるような内容を取り入れ、運動や食事、生活習慣について振り返ることで日常生活の中で改善すべき点に気付くことができた。 参加者数:348人	A	生活習慣を見直すきっかけとして講座に参加する人が増え、できることから実践し、メタボリックシンドロームの改善、予防に繋げていけるよう、今後も講座を開催していく。	国保年金課
	目的:自らの生活習慣を振り返り、改善する意欲を高める。 内容:メタボリックシンドロームの改善・予防を図る講座を開催(脱メタボ・スリムアップ・はじめの一步・糖尿病予防・糖尿病予防講座は一般も対象)	目標値	80	82	85	88	90				
		実績値	75.3								
エ	重点健康相談事業(骨密度測定相談会)	指標	骨密度測定会の参加者数(人)					乳がん検診時に7回、特定健診受診者への講座4回、イベント等で骨密度測定を実施した。初めて測定する方が多く、栄養指導等を行い生活習慣改善に向けた。参加人数は428人(平成29年度は366人)	A	乳がん検診時での啓発は、若い人へのアプローチがしやすく、初めて骨密度を受ける人も多い。加えて、特定健診受診者やイベント等を通じて、より広く骨粗しょう症予防を周知していく。	健康づくり課
	目的:骨密度に関心をもち、自らの骨密度を知る人が増える。 内容:骨粗鬆症予防を目的とした骨密度測定の実施	目標値	400	400	400	400	400				
		実績値	428								
オ	一般介護予防事業の実施(運動)	指標	運動に関する講座の延参加者数(人)					公民館等で以下の運動講座を実施した。 「体力測定会」6会場 延400人 「結果説明会」3会場 延134人 「サルコペニア予防」11日間 延175人 「健康はつらつ体操」2日間×7回 延230人 「スタイル改善で痛み予防」2日間×7回 延251人 「ポールウォーキング」2日間×3回 延124人 「いきいき運動コース」11日間×4会場 延1381人 「コグニサイズでGO」2日間×2会場 延151人 ・ミニデイサービスで運動講座を実施 14回 延231人参加 ・地域高齢者支援センター主催の介護予防教室 60回 延1311人参加	A	日常生活の中で取り組みやすい運動方法を知り、自分に合った無理のない効果的な運動を取り入れることができるような運動講座を提供していく。	高齢介護課
	目的:介護予防の普及・啓発を行い、介護予防の推進を図る。 内容:運動に関する講座、相談などの実施	目標値	2,650	2,800	2,950	3,100	3,250				
		実績値	4,388								
カ	運動推進事業(さわやか体操出張講習会)の実施(再掲)	指標	さわやか体操出張講習会の依頼数(団体)					依頼のあった自治会や地域の活動団体に 出向き、秦野市民体操「さわやか体操」の指導及び体操継続を支援した。その他、イベントでも体操披露を行った。(H29:7団体)	A	イベントでの体操披露の機会をとらえ、さわやかマスターによる出張講座の周知を積極的に行う他、チラシの作成等工夫していく。	健康づくり課
	目的:地域の活動団体や自主サークルへさわやか体操を広める。 内容:依頼のあった団体へ、さわやか体操の出張講座を実施	目標値	10	11	12	13	14				
		実績値	12								
キ	3033運動の推進	指標	イベントで3033運動の啓発周知数(回)					各スポーツ施設への階段や壁に常時ポスター掲示し、普及啓発を図るとともに、市民体育祭などで3033運動推進ポケットティッシュを配布した。	A	ポケットティッシュをより多くの事業で配布する。 3033運動普及員養成講座を開催し普及員を増やす。	スポーツ推進課
	目的:1日30分、週3回、3か月継続してスポーツを実施。 内容:イベント等で普及啓発を実施	目標値	1	-	-	-	-				
		実績値	2								
ク	スポーツ教室(市スポーツ協会による実施)	指標	新規プログラム教室の開催数(回)					・椅子ヨガ 18名 ・パークゴルフ教室 10名 ・ターゲットボード教室 6名 ・ポディーケアエクササイズ 7名 ・からだ矯正体操 57名 こども向けの新規プログラムはなし	A	現在開催している教室事業をベースに、利用者の要望を取り入れた新規プログラムを検討し、教室を展開していく。	スポーツ推進課
	目的:子供から高齢者、障害者などがスポーツに親しむ。 内容:気軽に参加できる各種スポーツ教室の実施	目標値	1	1	1	1	1				
		実績値	5								
ケ	スポーツ・レクリエーションイベントの充実	指標	チャレンジデーの参加率(%)					1日で15分間の身体活動を行った市民の割合を競うチャレンジデーその他、新規イベントの実績(参加者) ・小学生ラグビー教室 55名 ・東海大学ラグビー観戦ツアー 84名 ・ラグビークリニック 100名	A	チャレンジデーの参加者増に向けた周知方法の工夫、及びラグビーワールドカップ、東京オリンピック・パラリンピックや県立戸川公園内に建設するスポーツクライミング施設を活用したイベントを開催していく。	スポーツ推進課
	目的:市民のスポーツに対する参加意欲を高める。 内容:参加型イベント(チャレンジデーなど)や体カテスト、ニュースポーツ体験会などの開催	目標値	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0				
		実績値	46.4								

基本施策 ○身体活動・運動に取り組みやすい環境づくり										
市の主な取組(事業名) 内容	目標値・ 実績値等	年度					実施状況及び成果等(H30)	担当課 評価	課題及び今後の対策(方向性)	
		H30	R1	R2	R3	R4				
ア さわやかマスター(体操普及員)の養成及び育成(再掲)	指 標	さわやかマスターの地域の派遣数(回)					地域で体操会の実施、市の事業協力(体操指導)、チャレンジデーや市民体育祭などのイベントで体操を披露し、市民が「さわやか体操」をきっかけにして健康づくりに取り組むための普及啓発を行った。(自主の体操会は除く)	A	さわやかマスターによる体操の普及を通じて、地域住民が運動習慣をもつきっかけづくりとなるよう、さわやかマスターの活動の場を広げていく。	健康づくり課
目的:さわやかマスターが地域で広く体操の普及を行う。 内容:さわやかマスターを養成・育成し、地域で活動できるよう支援	目標値	75	77	79	81	83				
	実績値	75								
イ 地域での体操会の開催(再掲)	指 標	市内体操会の延参加者数(人)					直営体操会(丹沢あおぞら・ラジオ体操会)や委託体操(3か所)、公園体操を含む市内の12か所で定期的に体操会を開催し、人とのつながりの中で継続できている。(H29:8,100人)	A	市の直営体操会、委託の体操会などの周知を行い、参加者を増やしていく。	健康づくり課
目的:地域で、「体操会」を定期的に実施し、運動習慣のある人を増やす。 内容:さわやかマスターが中心となり、体操会を定期的に開催	目標値	8,000	8,100	8,200	8,300	8,400				
	実績値	7,125								
ウ 普及啓発事業の実施	指 標	ウォーキングマップの配布数(枚)					市民が運動に取り組む環境づくりとして、ウォーキングマップや未病ウォーキングアプリの普及、チラシやホームページ、動画配信、さわやか体操のCD・DVD配布等を行った。	A	市民が運動に取り組めるよう、媒体の工夫、各イベントや講座実施の機会をとらえ積極的に配布していく。	健康づくり課
目標:市民が運動に取り組みやすい環境づくり 内容:ウォーキングマップ、さわやか体操のCD・DVD等を配布	目標値	550	600	650	700	750				
	実績値	570								
エ 健康増進計画事業推進協議会との協働事業(再掲)	指 標	春風ウォークの参加者数(人)					「ハダ恋桜キャンペーン」の関連事業として広報課と連携。全長5.8kmの桜道を、健康づくりのキーワードを探しながら歩き、楽しみながら運動習慣のきっかけづくりを行った。桜の開花時期がずれ、参加者は減少。(H29年度:410人)	B	天候や桜の開花状況により、参加者の増減が見込まれるが、あらゆる世代に普及啓発できる機会として、継続実施していく。	健康づくり課
目的:健康増進計画推進協議会と連携による健康づくりの普及啓発 内容:健康増進計画「健康はだの21」の推進協議会と協力して、健康づくりイベントを実施	目標値	400	400	400	400	400				
	実績値	276								
オ 森林セラピー事業	指 標	森林セラピーの開催数(回)					里山団体と共催で、広報等で参加者の募集を行ったうえで、森林セラピー体験事業を実施し、森林の新たな活用を図り、里山の魅力を発信した。天候不順等により一部実施できなかったが、四半期ごとに実施できた。	B	令和2年2月の森林セラピー基地及びロードの認定に向けて、新たな森林セラピープログラムの開発及びそれに付随する環境整備の実施	環境共生課
目的:山の魅力を感じながら身体活動を普及啓発する 内容:市と里山団体共催で一般市民などを対象に森林セラピー体験事業を市内の里山において実施	目標値	8	8	8	8	8				
	実績値	5								

基本の方向性 II 健康維持向上のための生活習慣の改善と環境づくり(疾病予防と健康増進)

評価指標		計画策定時	目標値	H30実績	H31実績	H32実績	H33実績	H34実績
非喫煙者の増加	男性	79.6%	82%	80.4%				
	女性	94.8%	96%	95.3%				
市内小中学校での喫煙防止教育回数の増加		3校	全校	3校				
1歳6か月児健診時の父と母の非喫煙者の増加	父	65.2%	70%	65.2%				
	母	94%	95%	93.2%				

重点目標 <たばこを吸わない人を増やす>

基本施策 ○未成年者の喫煙防止への取組										
市の主な取組(事業名)	目標値・実績値等	年度					実施状況及び成果等(H30)	担当課評価	課題と今後の対策(方向性)	
		H30	R1	R2	R3	R4				
ア 市内小中学校での喫煙防止教育	指標	アンケートで「喫煙したいと思わない」割合(%)					小学校2校、中学校1校で開催した。他、3年度に1度開催の要望がある中学校1校があり、市の取り組みを知っている学校からは例年依頼があり、取り組みを進めている。	A	実施校を広げていき、若い世代から喫煙することのリスクを伝えることにより、将来にわたり喫煙する人の減少を目指す。今後も継続しながら、依頼のない学校への周知も広げていく。	健康づくり課
目的:「たばこを吸わない」と選択できる未成年を増やす。 内容:小中学校における、たばこの害や喫煙防止に関する講演会の実施	目標値	100	100	100	100	100				
	実績値	99.0								

基本施策 ○喫煙の害についての普及啓発及び卒煙支援										
市の主な取組(事業名)	目標値・実績値等	年度					実施状況及び成果等(H30)	担当課評価	課題と今後の対策(方向性)	
		H30	R1	R2	R3	R4				
ア 普及啓発事業	指標	呼気検査の体験者数(人)					市民の日(COPD体験)61名と呼気検査190名を実施。非喫煙者も体験することで、COPDの知識の普及と喫煙することのリスクを実体験してもらうことができた。	A	市民の日やセンターフェスティバル等でのイベントを通じて、COPD体験を喫煙者だけではなく、非喫煙者にも体験してもらうことで、煙草の害についてより理解を深めてもらう。	国保年金課
目的:喫煙の害について正しく認識する人を増やす。 内容:イベントでの簡易COPD体験の実施及びチラシの配布	目標値	250	250	250	250	250				
	実績値	251								
イ 個別健康相談	指標	特定保健指導で行動変容(禁煙・本数減)した割合(%)					H29の実績では、特定保健指導で禁煙支援を行った15人のうち、7人が行動変容(禁煙:3人/本数減4人)した。 ・健康カレンダーやHP等で禁煙の個別相談の周知を実施。	C	特定保健指導の際の禁煙につながる支援のスキルアップ及び医療機関での治療についても広く周知していく。	健康づくり課
目的:禁煙に関心がある人が、禁煙できる。 内容:禁煙希望者への個別相談支援及び禁煙外来などの情報提供、特定保健指導の実施	目標値	100	100	100	100	100				
	実績値	47								

ウ 周産期からの禁煙支援										
市の主な取組(事業名)	目標値・実績値等	年度					実施状況及び成果等(H30)	担当課評価	課題と今後の対策(方向性)	
		H30	R1	R2	R3	R4				
a) 妊娠届出時、おめでた家族教室	指標	4か月健診時の母の非喫煙率(%)					全妊婦を対象に面接により母子健康手帳交付しており、アンケートにおいて、喫煙している妊婦及び家族に対し、禁煙指導を実施し、禁煙外来等の情報提供した。(妊娠届出時非喫煙率:98.2%)	A	引き続き、母子健康手帳交付時に禁煙支援していくとともに、おめでた家族教室等に配偶者が参加の際には呼気検査を行うなど、禁煙支援の充実を図る。	こども家庭支援課
目的:妊産婦の健康を保持し、将来にわたって子どもの健康を守る。 内容:妊娠期からの禁煙支援及び受動喫煙を防止を支援	目標値	100	100	100	100	100				
	実績値	95.4								
b) 乳幼児健診での禁煙支援	指標	1歳6か月児健診時の父母の非喫煙率(%)					4か月児・1歳6か月児健診において、問診で喫煙状況について確認し、禁煙の重要性について説明を実施。	B	出産後、子どもの年齢が上がるにつれて、禁煙意識が低下する傾向があるため、妊娠～新生児訪問～乳幼児健診と継続して繰り返し、喫煙防止について支援する。問診等で対応した職員によるばらつきが無いように、資料等の作成し、指導の標準化を図る。	こども家庭支援課
目的:将来にわたって子どもの健康を守る。 内容:4か月児健診、1歳6か月児健診時に保護者の喫煙状況を確認し、禁煙支援を実施	目標値	父70 母95	父70 母95	父70 母95	父70 母95	父70 母95				
	実績値	父65.2 母93.2								

健康増進計画(健康はだの21)第4期計画

基本の方向性 II 健康維持向上のための生活習慣の改善と環境づくり(疾病予防と健康増進)											
取組分野 5 歯・口腔											
評価指標	計画策定時	目標値	H30実績	H31実績	H32実績	H33実績	H34実績				
3歳6か月児歯科健診におけるむし歯がない幼児の増加	85.5%	86%	86.5%								
年に1度以上、歯科健診を受けている人の増加	33.9%	45%	《57.4%》								
補助的清掃用具の使用について普及啓発をすることで、口腔内のセルフケアをしている人の増加	54.1%	65.0%	34.2%								
80歳(75~84歳)で20本以上自分の歯を有する人の増加	38.1%	50.0%	《42.9%》								
※《 》参考値：策定時の指標と抽出先が異なる											
重点目標 <いつまでも自分の歯でおいしく食べられる人を増やす>											
基本施策 ○乳幼児健診におけるむし歯予防の推進											
市の主な取組(事業名)		年度					実施状況及び成果等	担当課評価	課題と今後の対策(方向性)		
内容		H30	R1	R2	R3	R4					
ア 歯科保健事業											
a) 妊婦歯科健康診査		指標	妊婦歯科検診受診率(%)					母子健康手帳交付時、受診の必要性を説明して妊娠中から口腔衛生に関心を持つきっかけとなるよう、受診勧奨に努めた。母子健康手帳交付778人(H30.6月~H31.3月) 年度内受診数111人	A	より多くの妊婦やその家族に、口腔衛生に関心を持てるように、受診を促し、妊婦と胎児の健康管理及び早産や低出生体重児の出産リスクの軽減に努める。	こども家庭支援課
目的:妊婦の口腔衛生の向上を図り、胎児の健全な発育を促す。 内容:母子保健法第13条に基づき、秦野伊勢原歯科医師会に委託し、妊娠中1回の歯科健康診査費用の補助を実施 ※平成30年6月からの開始事業。		目標値	-	-	-	-					
		実績値	14.3								
b) 乳幼児健康診査における歯科健診及び歯科相談		指標	3歳6か月児健診時の虫歯がない幼児の割合(%)					歯が生え始める7か月児健診から集団指導を行い、それ以降個別や集団と連続した歯科保健指導を実施。虫歯の発生予防や母乳、ミルク、食事、おやつ等の食生活、仕上げ磨き、また嘔む大切さを伝えることで、口腔の保持増進に努めた。	A	引き続き、健康な体の基礎が作られる乳幼児期からの口腔の保持増進に努める。	こども家庭支援課
目的:生涯にわたっての、口腔の健康増進を図る。 内容:乳幼児健診において、歯科健診及び歯科相談を実施		目標値	86								
		実績値	86.5								
d) 幼児食と歯のセミナー		指標	自宅で虫歯予防を実践できそうと思った割合(%)					「早寝、早起き、朝ごはん」の生活習慣づくりの重要性を伝え、虫歯予防との関連性も学ぶことから、家族で生活習慣も見直す機会となった。実施回数12回、参加者数230人	A	今後も参加しやすいように7か月児健診時にリーフレットを配布し、家族で食育及び虫歯予防に取り組めるよう支援に努める。	こども家庭支援課
目的:子どもの食べる意欲、身体、情緒、ことばの発達を促す食事の大切さを伝える。 内容:食することからのむし歯予防を啓発し、食事の大切さを伝える教室の開催		目標値	100	100	100	100					
		実績値	100								
○予防歯科及びかかりつけ歯科医の必要性の普及啓発											
市の主な取組(事業名)		年度					実施状況及び成果等	担当課評価	課題と今後の対策(方向性)		
内容		H30	R1	R2	R3	R4					
ア 歯周病検診		指標	歯周病健診受診率(%)					高齢になるにつれて歯周疾患をもつ人が増加する傾向にあり、口腔機能の低下を予防するために、対象年齢の市民に案内はがきを送付し、歯周病検診を実施。(H29年度受診率5.2%)	A	広報はだのによる受診勧奨を行っており、受診率は微増。案内はがきを变形はがきにすることも検討している。	健康づくり課
目的:歯周病の早期発見・早期治療につなげる。 内容:40・50・60・70歳での検診を秦野伊勢原歯科医師会に委託し実施		目標値	5.5	5.6	5.7	5.8	5.9				
		実績値	5.9								
イ 歯科保健普及啓発事業(歯と口の健康週間事業)											
a) 歯と口の口腔ケア講演会		指標	口腔ケア講演会の参加者数(人)					6月の歯と口の健康週間の中で、口腔内疾患の正しい知識を普及啓発し、その予防、早期発見、早期治療等を図るため、東海大学医学部教授を講師として招き、講演会を実施。(H29年度参加者数 174人)	A	公共施設へのちらしの設置だけでなく、自治回覧等による周知を継続し、参加者の増加を図る。	健康づくり課
目的:歯と口腔に関心がある人を増やす。 内容:正しい歯と口腔のセルフケアを普及する講演会の実施		目標値	130	135	135	140	140				
		実績値	130								
b) 口腔がん検診		指標	口腔がん検診の受診者数(人)					歯と口の口腔ケア講演会と同日実施し、申し込み多数の場合は抽選。口腔がんの早期発見、早期治療に繋がるよう、検診を実施。	B	1人でも多くの人が早期発見、早期治療に繋がるよう、申し込みはがきに不安な症状を記入してもらい、振るい分けをするか検討。また、他の検診同様に対象者に案内を送付し、各医療機関での検診にしていかが検討する。	健康づくり課
目的:口腔がんの早期発見・早期治療 内容:口腔がん検診の実施		目標値	50	70	70	70	70				
		実績値	48								
ウ 一般介護予防事業(口腔)		指標	口腔に関する講座の延参加者数(人)					・公民館等で口腔講座を実施 「口から始まる若返り術」2日間 延33人 「笑いヨガ(口腔)」7会場 延113人 「認知症予防教室(口腔)」7会場 延133人 ・ミニデイサービスでの口腔講座9回 延136人 ・いきいき運動コースでの口腔講座4回 延133人 ・地域高齢者支援センター主催の介護予防教室 7回 延145人	B	オーラルフレイルを予防するための講座内容を検討し、口腔に関する健康教育・相談の充実を図る。	高齢介護課
目的:介護予防の普及・啓発を行い、介護予防の推進を図る。 内容:各種の口腔に関する健康教育・相談などの実施		目標値	800	850	900	950	1000				
		実績値	693								

基本の方向性 II 健康維持向上のための生活習慣の改善と環境づくり(疾病予防と健康増進)

取組分野	6 感染症	評価指標	計画策定時	目標値	H30実績	H31実績	H32実績	H33実績	H34実績
		感染症に関する注意報、警報等の情報提供	100.0%	100%	100.0%				
		高齢者インフルエンザ予防接種の接種率の向上	43.2%	48%	42.4%				
		新型インフルエンザ等対応訓練の実施	年1回	年1回	年1回				

重点目標 <感染症の正しい知識の普及啓発>

基本施策 ○感染症などについての正しい知識の普及啓発

市の主な取組(事業名)	内容	目標値・実績値等	年度					実施状況及び成果等(H30)	AB CD	課題と今後の対策(方向性)	
			H30	R1	R2	R3	R4				
ア 普及啓発の実施	指標 HPの感染症情報更新数(回)	目標値 随時 実績値 10	随時	随時	随時	随時	随時	感染症情報が入り次第、HPを通じて市民に随時予防啓発等の注意喚起を実施(インフルエンザ・ノロ・食中毒・麻疹・風疹等)	A	毎年同時期に発生することが多いため、周知を継続する必要がある。より多くの市民に情報を提供するためにも市Twitterを利用した情報発信を適宜行う。	健康づくり課
イ 普及啓発の実施(乳幼児等)	指標 4か月児健診で予防接種についての説明(4か月児健診受診率(%))	目標値 100 実績値 99.4	100	100	100	100	100	新生児訪問時には今後の予防接種のスケジュールについて説明し、さらに、全健診の問診時に予防接種や感染症予防について、確認し説明を実施。予防接種が進んでいない場合は診察医師からも必要性について説明している。	A	今後も感染症予防の必要性について、丁寧に説明し、感染症予防及び予防接種の接種率の向上に努める。	子ども家庭支援課

基本施策 ○予防接種助成による感染症予防事業の実施

市の主な取組(事業名)	内容	目標値・実績値等	年度					実施状況及び成果等(H30)	AB CD	課題と今後の対策(方向性)	
			H30	R1	R2	R3	R4				
ア 予防接種事業の実施											
a) 乳幼児から20歳未満の予防接種	指標 麻しん・風しん(混合・単独)(一期)ワクチンの接種率(%)	目標値 100 実績値 94.3	100	100	100	100	100	乳幼児健診における問診や各医療機関における接種勧奨により、接種率は例年並みに高水準であった。対象者数1,030人 接種者数971人	A	接種率向上のため、引き続き医療機関とも連携し、接種勧奨を行う。	子ども家庭支援課
b) 65歳以上の季節性インフルエンザ予防接種	指標 ワクチン接種率(%)	目標値 44.0 実績値 42.4	44.0	45.0	46.0	47.0	48.0	市民の利便性等を考慮し、秦野伊勢原医師会、平塚市医師会、足柄上医師会だけでなく個別医療機関と契約することでワクチン接種率の向上を図った。接種率は増加傾向にある。(H29年度の接種率:41.1%)	A	広報はだのでの周知を行っているが、窓口対応の中で市民から助成事業を知らなかったとの声を聴くことがある。毎年のように流行するため、周知の方法を検討していく。	健康づくり課
c) 高齢者用肺炎球菌予防接種	指標 65歳のワクチン接種率(%)	目標値 45.0 実績値 43.7	45.0	45.0	45.0	45.0	45.0	市民の利便性等を考慮し、秦野伊勢原医師会、平塚市医師会、足柄上医師会だけでなく個別医療機関と契約することでワクチン接種率の向上を図った。5年間の経過措置がH30年度で終了。(H29年度の接種率:48.4%)	A	H31年度から、引き続き、経過措置が5年間継続されることが決定。事業の周知に力を入れるとともに接種しやすい体制づくりを行う。	健康づくり課

基本施策 ○新型インフルエンザ及び新興感染症に関する情報収集と対応訓練の実施

市の主な取組(事業名)	内容	目標値・実績値等	年度					実施状況及び成果等(H30)	AB CD	課題と今後の対策(方向性)	
			H30	R1	R2	R3	R4				
ア 危機管理体制の構築											
a) 平時からの新興感染症対策(情報収集)	指標 研修会や会議等への出席数(回)	目標値 — 実績値 3	—	—	—	—	—	県が主催する会議、研修会および対応訓練に参加し、関係機関と課題共有を図った。	A	今後も関係機関と連携しながら、継続していく。	健康づくり課

健康増進計画(健康はだの21)第4期計画

基本の方向性 Ⅲ 生活習慣病の重症化予防									
取組分野 1 がん									
評価指標	計画策定時	目標値	H30実績	H31実績	H32実績	H33実績	H34実績		
子宮頸がん(20~69歳)検診受診率の向上	12.6%	50%	11.4%						
乳がん(40~69歳)検診受診率の向上	17.8%	50%	17.0%						
大腸がん(40~69歳)検診受診率の向上	8.1%	50%	7.0%						
精密検査受診率(大腸)の向上	70.8%(H28年度)	90%	81.7%(H29年度)						
重点目標 <がん検診を受診する人を増やす>									
基本施策 ○ 悪性新生物(がん)の発生予防のための生活習慣についての普及啓発									
市の主な取組(事業名)	目標値・実績値等	年度					実施状況及び成果等(H30)	担当課評価	課題と今後の対策(方向性)
内容		H30	R1	R2	R3	R4			
ア 普及啓発事業	指標	リーフレット配布枚数(固定配布)					リーフレットやホームページ等でがん予防する生活習慣の普及啓発を実施した。臨時配布としてがん検診啓発月間時は、およそ500枚配布できた。小中学校において喫煙防止に関する講演会を実施し、児童にたばこの発がん性について教育ができた。	A	普及啓発を実施する機会や配布数は増加しているものの、医療機関、公的な場所等での周知はほぼ行き届いているため、次年度からは民間の協力を活用した周知も検討する。現在、県がこども向けにがん教育をモデル的に実施しているため、喫煙防止教育を進展させ、がん予防教育の取り組みを検討していく。
	目標値	14350枚 99か所	14350枚 99か所	14350枚 99か所	14350枚 99か所	14350枚 99か所			
	実績値	14350枚 99か所							
目的:がんの発生予防のための生活習慣について知ってもらう 内容:広報などによるがん検診受診案内の実施 ポスター作成やパンフレットの配布 小中学校において喫煙防止に関する講演会の実施	指標	たばこの害や喫煙防止講演会の実施数(校)							
	目標値	3	3	4	4	5			
	実績値	3							
基本施策 ○ 科学的根拠に基づくがん検診の実施と受診率向上のための普及啓発及び環境整備									
市の主な取組(事業名)	目標値・実績値等	年度					実施状況及び成果等(H30)	担当課評価	課題と今後の対策(方向性)
内容		H30	R1	R2	R3	R4			
ア がん検診の実施									
a) 子宮頸がん検診	指標	子宮頸がん検診(20~69歳)の受診率					受診しやすい環境整備を実施した。 ・集団検診でレディースデイの実施(女性医師による、女性のみを対象)平日の2日間実施:57人(H29:土曜日の2日間実施 47人) ・施設検診で女性医師の担当日の確認 ・H29年度子宮頸がん発見者 0人 検診の精度管理(要精検率、的中率、発見率等)では、国の許容値の範囲で適正。	C	新規の登録者はあるものの、受診者数は伸びず、受診率は微減。さらに受診しやすい環境を整えるために、レディースデイを行きやすい場所に変更するなど、検討する。
	目標値	20.1	27.6	35.1	42.6	50.0			
目的:子宮頸がんの早期発見をする。 内容:女性特有のがんを早期発見するため、子宮がん健診(個別・集団)を実施	実績値	11.4							
b) 乳がん検診	指標	乳がん検診(20~69歳)の受診率(%)					受診しやすい環境整備を実施した。 ・集団検診でレディースデイの実施(女性医師による、女性のみを対象)平日の2日間実施:107人(H29:土曜日の2日間実施 65人) ・H29年度がん発見者数 4人 検診の精度管理(要精検率、的中率、発見率等)では、国の許容値の範囲で適正。検診精度向上のため、全数に二重読影を実施可能になるように、医療機関と調整した。	C	新規の登録者はあるものの、受診者数は伸びず、受診率は微減。さらに受診しやすい環境を整えるために、レディースデイを行きやすい場所に変更するなど、検討する。
	目標値	24.3	30.8	37.3	43.8	50.0			
目的:乳がんの早期発見をする。 内容:女性特有のがんを早期発見するため、乳がん健診(個別・集団)を実施	実績値	17.0							
c) 大腸がん検診	指標	大腸がん検診(40~69歳)の受診率(%)					受診しやすい環境整備を実施した。 ・大腸がん単独受診の場合は、乳がん検診会場でも受け付けを実施:5人 ・H29年度がん発見者数10人 検診の精度管理(要精検率、的中率、発見率等)では、国の許容値の範囲で適正。	C	新規の登録者はあるものの、受診者数は伸びず、受診率は微減。新規登録者を増やすために、大腸がんの検査について、様々な健康講座等でトピック的に実施するなど検討する。
	目標値	16.5	24.9	33.3	41.7	50.0			
目的:大腸がんの早期発見をする。 内容:大腸がんの早期発見するため、大腸がん健診(集団)を実施	実績値	7.0							
イ 普及啓発の実施									
	指標	子宮頸がん検診の新規登録者数(人)					リーフレットやホームページ等でがん予防する生活習慣の普及啓発を実施。 ・保育園・幼稚園の保護者に女性特有のがんについての普及啓発を実施。 ・広報などによるがん検診受診案内の実施 ・イベント等でパンフレットの配布。 目標値に達成しなかったが、積極的な普及啓発の実施により、乳がん、子宮頸がん検診の新規登録者数はともに約350人の増となった。	C	普及啓発を実施する機会や配布数は増加しているものの、目標値には達成しなかった。今後も継続的に実施していくことが必要だが、医療機関、公的な場所や機会での周知はほぼ行き届いているため、次年度からは民間の協力を活用した周知も検討する。
	目標値	4,000	4,000	4,000	4,000	4,000			
目的:市民ががん検診について正しい情報を知る。 内容:広報などによるがん検診受診案内の実施やポスター作成やパンフレットの配布	実績値	1,624							
	指標	乳がん検診の新規登録者数(人)							
	目標値	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000			
	実績値	1,498							
ウ 受診勧奨事業									
a) 無料クーポン券の配布及び受診勧奨	指標	子宮頸がん検診無料クーポン券利用率(%)					女性のがんの中でも罹患する人が多く、20~40歳代の女性で死亡原因の上位に位置する乳がんについて、がん検診受診の動機づけを行うため、20歳(子宮頸がん検診)及び40歳(乳がん検診)の年齢の方を対象に無料クーポン券を配布し、受診勧奨を実施。 子宮頸がん検診については、11月の段階で対象者数806人に対し受診者数15人(利用率1.9%)であったため、未受診者791人にはがきによる個別受診勧奨を実施し、71人の受診(利用率8.8%)があった。	C	無料クーポン券利用率が低い子宮頸がん検診については、受診勧奨はがきを年度途中に送付し、再度受診勧奨を実施。若年層の受診率を向上させるための取組みを継続的に実施していく。
	目標値	20.1	27.6	35.1	42.6	50.0			
目的:若年層の受診率を上げる。 内容:無料クーポン券(子宮頸がん・乳がん)の配布及び受診勧奨	実績値	8.8							
	指標	乳がん検診無料クーポン券利用率(%)							
	目標値	24.3	30.8	37.3	43.8	50.0			
	実績値	18.3							
b) 受診年齢到達者への受診勧奨	指標	40歳到達者の乳がん検診登録申込率(%)					がん検診の受診促進及びがんの早期発見につながるため、翌年度にがん検診を受診することができる年齢に達する方に対し、がん検診登録勧奨はがきを送付。	C	がん検診の有効性や定期的に受診することの大切さを引き続き周知していくとともに、検診を受けやすい環境整備と効果的な事業を実施し、受診率の向上に努める。
	目標値	50	50	50	50	50			
目的:がん検診登録者を増やす。 内容:翌年度受診年齢に到達する方への受診勧奨	実績値	28.2							
	指標	40歳到達者の大腸がん検診登録申込率(%)							
	目標値	50	50	50	50	50			
	実績値	14.8							
○ 精密検査受診率の向上と結果の把握									
ア 精密検査受診率	指標	大腸がん検診要精密検査受診率(%)					平成30年度から結果通知の方法を変更。通知による精密検査のお知らせのほか、①結果票及び封筒の表に朱色で「重要」の印鑑を押す、②過去に精密検査対象となり未受診であったものには、手書きのコメント及びリーフレットを封入。	A	実績が翌年度に確定するため、平成30年度の実施内容に対する評価は次年度からとなるため評価はなし。未受診者へに受診勧奨通知発送数が減じてきているため、継続実施。
	目標値	70	75	80	85	90			
目的:精密検査受診率を増やす。 内容:精密検査未受診者への受診勧奨	実績値	81.7 (H29年度)							

健康増進計画(健康はだの21)第4期計画

基本の方向性	Ⅲ 生活習慣病の重症化予防						
取組分野	2 生活習慣病						
評価指標	計画策定時	目標値	H30実績	H31実績	H32実績	H33実績	H34実績
特定健康診査受診率の向上	33.8%	40%	※33.6%				
特定保健指導終了者割合の増加	18.5%	26%	※16%				
特定保健指導対象者割合の減少	9.8%	8.5%	※9.7%				

※特定健診については、最新の情報であるH29年度を記載しています。

重点目標 <生活習慣病の重症化を防ぐ>

基本施策 ○特定健康診査及び市民健康診査の受診率向上のための取組

市の主な取組(事業名) 内容	目標値・実績値等	年度					実施状況及び成果等(H30)	担当課 評価	課題と今後の対策(方向性)	
		H30	R1	R2	R3	R4				
ア 普及啓発事業										
a) 特定健康診査未受診者への受診勧奨	指標	電話勧奨者の特定健康診査受診率(%)					受診勧奨通知を40～45歳、60～65歳、50、55、70歳に2回発送した。発送後に、電話がつながった方が1857人、電話勧奨後に受診した方が47人だった。受診券紛失者や受け忘れていたという人が受診につながった。	C	勧奨通知を送付し、電話番号を把握できた人に電話勧奨をしているが、留守電、不在、不通が多く、本人につながるのは約3割である。今後は電話勧奨の効果的な実施について、検討していく必要がある。	国保年金課
目的: 特定健康診査受診率を向上する。 内容: 健診対象者への個別通知及び未受診者に対する受診勧奨の実施(特定健康診査)	目標値	8	8	9	9	10				
	実績値	2.5								
b) ショッピングモール等での普及啓発	指標	普及啓発の人数と回数(人/回)					イオンショッピングモール、市民の日、センターフェスティバルなどのイベントや、身体を動かすはじめの一步(12回、158人)、実践! 脱メタボ健康講座(全7回、61人)スリムアップ食事バランス講座(全7回、62人)の講座にて、啓発品の配布及び特定健診周知のためのアンケート、受診促進の声掛けや健康相談等を実施した。	A	アンケートからも検診の認知度については上がってきていることが読み取れるが、今後は認知度だけではなく健診の必要性まで伝えるため、受診のメリット、未受診のリスク等を周知する方法を検討していく。また、健診のみではなく、保健指導の利用にもつなげられるよう工夫していく。	国保年金課
目的: 特定健康診査受診率を向上する。 内容: イベント、健康講座・相談会等での健診受診の必要性について普及啓発を実施。ポスター、パンフレットの配布や個別面接	目標値	2,100人 28回	2,200 28	2,300 29	2,400 29	2,500 30				
	実績値	2,469人 29回								
イ 特定保健指導の実施	指標	特定保健指導の実施率(%)					・6か月間、保健師・管理栄養士がメタボリックシンドロームに着目して生活習慣改善のために支援を行った。 ・実施後の体重変化は、全体の63%が減少、腹囲は55%が減少した。 ・特定保健指導の継続支援として、食生活及び身体活動に関する「実践! 脱メタボ講座」を開設した。さらに、「健康測定会」や「PTA講座」、健康づくり事業「健康バス」の同行も開始し、地域に出向くことで直接受診勧奨ができ、結果を活かす保健指導の必要性を伝えることができた。	B	特定健診受診率の高い地域や市役所から遠方の地域に対して、新しく保健指導を実施する場所を2日設ける。また、健康づくり課の事業「健康バス」、「PTA講座」に加え、今年度より「健康相談会」に同行し、幅広い世代の保健指導利用率上昇につなげられるよう、健康に関心のある人たちと直接関わる機会を有効にしていこう。	国保年金課
目的: 生活習慣病、および予備群の減少を図る。 内容: 特定保健指導対象者への6か月間の生活習慣改善支援の実施	目標値	20	21	22	23	24				
	実績値	8.5 (速報値)								
ウ 健康ポイントプログラムの実施	指標	アンケートで「健康ポイントラー参加後、よい変化があった」割合(%)					ポイントラーは健診受診で20pがつくシステム。国民健康保険の納税通知書と併せて6月に全世帯へ応募用紙を配付。初年度は144件の応募があった。積極的に講座に参加したり、自分で目標を立て実践している人が多く見られた。応募件数が少なかったためBとした。	B	初年度ということもあり、全体の応募件数が少なかった。今後地道に周知を続けていく。 他課の講座においても周知できるように連携体制を整えていく。	国保年金課
目的: 特定健診の受診率の向上及び健康づくりの取り組みを実践する人を増やす。 内容: 各健(検)診や健康教室の参加、健康づくりの取組をした者に対してポイントを付与(平成30年度から事業開始)	目標値	50	50	50	50	50				
	実績値	85.4								
エ 巡回型健康測定事業(健康バス事業)	指標	健康測定会に参加者数(人)					平成30年度より東海大学の協力により公民館5か所で開催した。測定会のため1回の開催の参加者数は限られるが、アンケート等で「自分の健康状態がよくわかった」と回答する割合も多い。	A	公民館等で実施することで、近隣の市民に呼びかけることができ、働き世代にもアクセスしやすい環境が整う。健康の「見える化」を進め普及啓発していく。	健康づくり課
目的: 内容: 東海大学健康学部との協働により、公民館等で健康測定(骨密度や体組成測定)を実施	目標値	150	150	150	150	150				
	実績値	170								

基本施策 ○生活習慣病の重症化予防のための取組

市の主な取組(事業名) 内容	目標値・実績値等	年度					実施状況及び成果等(H30)	担当課 評価	課題と今後の対策(方向性)	
		H30	R1	R2	R3	R4				
ア 生活習慣病重症化予防事業										
a) HbA1c6.5%以上に対する受診勧奨	指標	受診者数の割合(%)					レセプト等より、HbA1c6.5%以上の人(受診歴がない)を抽出し医療機関への受診勧奨を実施した。電話の時点で既に医療機関に受診している人を除き、22名中6名が受診につながった。	B	電話かけのスキルアップと未受診者へのフォローを検討していく。	国保年金課
目的: 医療機関に受診できる。 内容: 特定健康診査受診者でHbA1c 6.5%以上の未受診者に対する電話受診勧奨	目標値	26	27	28	29	30				
	実績値	27.3								
b) かかりつけ医と連携した生活習慣改善プログラム	指標	生活習慣が改善したと申告した人の割合(%) (食事・運動)					レセプト及び健診結果から糖尿病性腎症の2期・3期の者を抽出し、年齢等から事業対象者92名を選定し、事業案内を送付し10名の応募があった。各かかりつけ医の記入した、保健指導確認証明書から参加者の現在の検査数値及び制限事項等を把握し、保健師によって半年間の保健指導を行った。	B	半年間の保健指導で生活習慣を改善できたという人でも検査数値はあまり改善がなかったことが課題。また、プログラム参加者について、事業終了後に手紙等によるフォローアップを予定しているが、何年間、どのようにフォローアップするか検討する必要がある。	国保年金課
目的: 生活習慣が改善する人を増やす。 内容: かかりつけ医で治療を継続しながら生活習慣改善を目指すプログラムの実施	目標値	66	67	68	69	70				
	実績値	85								
イ 生活習慣病予防事業(保健事業)										
a) メタボリックシンドロームの改善、予防のための講座(再掲)	指標	保健指導対象者の参加率(%)					メタボリックシンドロームという言葉キーワードに油や食物繊維について等、日常生活に取り入れやすい内容で実施した。実施回数: 7回/参加者数: 73名	B	講座を通して適切な食事の摂り方、正しい知識を学び、メタボリックシンドロームの予防・改善に繋げるよう参加者の増加を図る。保健指導対象者の参加率を上げていく。	健康づくり年金課
目的: 食事の適量を知り、望ましい食行動を学ぶことができる。 内容: 特定健康診査受診者を対象にメタボリックシンドロームの改善と予防のための食事を学ぶ講座の開催(スリムアップ)	目標値	20	21	22	23	24				
	実績値	16.4								
b) 病態別の料理講座(再掲)	指標	病態別の料理講座の参加者数(人)					病態別(糖尿病編、高血圧症編、脂質異常症編)に料理講座を開催。各病態についての講話や個人ワークを行い、自分自身を見つめ直すことで、生活習慣病の重症化予防に繋がるよう実施。(H29年度参加人数: 48人)	B	生活習慣病のリスクを複合してもつ人が多いため、各病態だけでなく総合的な支援ができるように検討していく。	健康づくり年金課
目的: 生活習慣病の重症化を予防するための料理のポイントがわかる。 内容: 病態別(糖尿病編、高血圧症編、脂質異常症編)料理講座の開催	目標値	60	60	60	60	60				
	実績値	51								
c) HbA1c 5.6%以上への生活習慣改善講座	指標	5.6%以上がフォローアップ講座の参加率(%)					生活習慣を改善することを目的とし、本人が自分の身体や生活習慣に合ったものに参加できるように、身体活動を増やす講座、運動と食事を考えた講座、実際に料理を作って食べる料理講座を実施した。対象者: 5,942人 参加者: 336人	B	自分自身の生活習慣を見直し、自分自身の状態を理解し、自分にあった講座を選び、改善するための行動変容へ繋げられる人を増やす。講座の参加者の増加を図る。	健康づくり年金課
目的: 生活習慣を改善する人が増える。 内容: HbA1c5.6%以上の者への生活習慣改善講座の開催	目標値	55	60	65	70	75				
	実績値	57.0								
d) 日常生活動作を増やすための講座	指標	アンケートで「実践する」割合(%)					講師を依頼し、自分自身の身体活動のレベルに合わせて3種類から選択して参加できる講座、運動と食事の両面からサポートしていく講座を開催した。実施回数: 22回 参加者: 235人	A	活動量を増やすことは容易なことではなく、難しいと考える人が多い。講座を通して、ちょっとした工夫で活動が増えることを知り、実践につなげていく。	健康づくり年金課
目的: 日常生活の動作が今より増える人を増やす。 内容: 日常生活動作を増やすための講座の開催	目標値	80	82	84	86	88				
	実績値	80.9								